

宇都宮市立清原北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」や、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の項目では、肯定割合が市・県の割合より高く、自主学習の充実がうかがえる。今後も学習内容の定着や児童の学習意欲向上を図るため、自主学習を推進していく。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の項目では、肯定割合が100%と市・県の割合より高いことから、学びに向かう意欲が高いと言える。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」や、「自分のもっている能力を十分に発揮したい」の項目では、肯定割合が市・県の割合より高い。一人ひとりのよさや可能性を伸ばし、個性を生かすことができる活動を多く取り入れていく。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の項目では、肯定割合が市・県の割合より低い。既習の内容を使って見通しを立てることで解決できることや、自力解決したときの達成感を感じる機会を設け、難しい問題にも挑戦していく意欲を高められるようにする。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と考えている児童が多い。文章を書くときにキーワードとなる言葉を提示することで文章を書く補助としたり、教科書の文章を視写するなど文章にふれる機会を多く設けたりすることで、文章を書くことへの苦手意識を減らし、意欲を高められるようにする。